

「表現」における音楽指導について

仲野悦子

Regarding the Concept of “Communication” in Music Guidance in Preschool

Etsuko Nakano

Abstract

Seven or eight years have passed since major revisions of the educational guidelines for nursery school and kindergarten and child care polices were made. The time has now come to investigate how the concept of “expression” is being defined and utilised. In this paper, the author examined students who hope to become nursery school teachers regarding their music skills in a performance environment. Then, students who had already graduated were given an examination to test their ability to interpret music and their performance in a musical environment. Based on the results, it was found that the concept of “expression” regarding music was unclear, and guidelines need to be established in the future. This study revealed the necessity of revising the methods of teaching the music curriculum, The current teaching methodology does help students to develop some music skills during their two years of study, but their repertory of songs, particularly regarding young children’s songs , was deficient. The current teaching methodology prepares students to play music as an activity for an event, but it does little in the way of creating a true musical environment for the music itself.

Received Apr.30,1996

Keyword : Music Expression, Performance Skills, Nursery School Teachers

I はじめに

幼稚園における音楽に関する指導内容《音楽リズム》が初めて法的に使用されたのは昭和31年刊「幼稚園教育要領」においてである。その後39年に改訂され現在施行されている「幼稚園教育要領」では《表現》という新たな領域が設定された。それまで30数年間に及んで使用されてきた領域《音楽リズム》が姿を消したわけである。新たな領域《表現》では“子ども”に重点をおき、豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現し、いろいろな形で

表現することを内容としている。しかし、保育現場では本学紀要第19集¹⁾及び第21集²⁾で報告したように多くの保育者が戸惑いを感じるという結果であった。また、保育に対する自己評価として「新要領が十分に生かしきれていない」などの意見が聞かれた。「旧要領」では特に音楽的活動において子どもたちに一斉指導の形で歌を歌わせたり楽器演奏を楽しませるといった内容を展開させていたが、「新要領」の領域《表現》では、「子どもの主体性を尊重する保育」や「個々の子どもの欲求を満たせられるような環境づくり」が重要となり、子どもとの接し方の違いに大きな差が出てきた。

そこでまず「要領」に示された新《表現》と旧《音楽リズム》および《絵画製作》を比較しその差異を明かにした。そして《表現》が実際の保育現場において具体的にどのような内容として考えられているか、またどのような子どもの活動としてとらえられているか、について考察した。

さらに将来の保育者としての学生の考え方や意識についても知り、望ましい保育者養成における音楽指導のあり方を探りたいと考えた。

Ⅱ 改訂による指導内容の変化

“感性を表現する力”の領域である《表現》の目標として「豊かな感性を育てること」、「感じたことや考えたことを表現する意欲を養うこと」、「創造性を豊かにすること」の3つをあげている。この3つの「ねらい」がこの領域における育てたい心情・意欲・態度となる。しかし、就学前教育としてまとめられている「幼稚園教育要領」（「新要領」とする）は「保育指針」のようにねらいや内容が年齢別発達の側面により明かにされていない。もう少し内容を具体的にするために、「新要領」《表現》とそれに対応する「旧要領」の《音楽リズム》と《絵画制作》の全文を比較し、用語の使い方を詳細に検討した。

まずはじめに項目についてみたとき、《表現》において“1ねらい”に3項目、“2幼児の活動内容”に8項目上げられているのに対し《音楽リズム》では“内容”として26項目ある。“1歌唱と楽器による音楽表現”の項目が8項目、“2身体の動きによる音楽表現”の項目が7項目、“3鑑賞による音楽表現”の項目が6項目、“4創作における音楽表現”の項目が5項目に分けられている。また《絵画製作》では、17項目があげられている。“1絵画および造形”が5項目、“2創造活動”が5項目、“3製作のための材料や用具”が4項目、“4鑑賞活動”が3項目となっている。（資料1参照）

このように内容を示す項目数からみても明かのように、2つの領域合わせて43項目が8項目にまとめられたことは大きな変化であり、保育現場において戸惑いを感じるのも当然なことである。

つぎに《表1》に示されたように語句より検討をした。「旧要領」では音楽や美術の専門用語を表す語句が多くみられるが、「新要領」では極めて少ない。例えば“音楽”という語

「表現」における音楽指導について

表1 「新・旧要領」の語句における比較

語句	表現	音楽リズム	絵画制作
音楽	1	8	
音	2	2	
歌	1	7	
声		1	
発声		1	
楽器	1	14	
曲		4	
音程		2	
旋律		2	
リズム	1	3	
リズムカル		6	
動き	3	7	
動かす	1	1	
歌う	1	10	
ひく		9	
絵			6
色	1		3
形	1		3
手触り	1		
用具	1		4
材料	1		5
素材	1		
作る	2		11
かく	2		8
使う	2		9
感性	3		
生活	6	2	3
楽しむ	4	9	
楽しさ	3		
親しむ	2	7	1
味わう	3	3	2
豊かにする	3	1	
豊か	3		
感じたこと	3	3	2
感じ		1	
～させる	2	13	7
表現する	7	6	3
表現	2	4	2

句は《音楽リズム》の場合は8例・《表現》では2例、“歌”という語句も「音楽リズム」の場合は7例・《表現》では1例である。同様に語句“楽器”は《音楽リズム》には14例・《表現》では1例、“歌う”は《音楽リズム》の場合は10例・《表現》では1例、“ひく”は《音楽リズム》の場合は9例・《表現》では出て来ない。このように《音楽リズム》にあり《表現》にはない語句は“声”、“発声”、“曲”、“音程”、“旋律”、“リズムカル”などが上げられる。さらに語句“絵”は《絵画製作》では6例・《表現》ではない。“色”、“形”は《絵画製作》では3例・《表現》では1例、“用具”は《絵画製作》では4例・《表現》では1例、“材料”は《絵画製作》では5例・《表現》では1例となっている。活動としての語句“作る”は《絵画製作》の場合は11例・《表現》では2例、語句“かく”は《絵画製作》の場合は8例・《表現》では2例、語句“使う”《絵画製作》の場合は8例・《表現》では2例である。

次に指導のあり方をあらわす語句として“楽しむ”は《音楽リズム》の場合は9例・《表現》では4例、語句“親しむ”は《音楽リズム》の場合は7例・《表現》では2例・《絵画製作》では1例ある。語句“味わう”、“感じたこと”は《音楽リズム》の場合は3例・《表現》では3例・《絵画製作》では2例、語句“豊にする”は《音楽リズム》の場合は1例・《表現》では3例と多くなってい

る。語句“～させる”という使役の言葉は《音楽リズム》の場合は13例・《絵画製作》では7例・《表現》では2例である。語句“表現する”は《音楽リズム》の場合は6例・《絵画製作》では3例・《表現》では7例であり、“豊にする”と同じく《表現》で多くなっている。

語句の中で《表現》のみに現れる言葉として“感性”、“楽しさ”、“豊か”の3つが上げられる。そして語句“生活”は《音楽リズム》の場合は2例・《絵画製作》では3例・《表現》では6例となっている。これらは生活の中から自然に活動が生まれ、楽しさや人間としての豊かさを育むことを目標とし、この目標を達成するためには保育者の感性が要求される新要領の意図とする語句である。

以上結果からみてもいかに《音楽リズム》に重きがおかれたか、また保育現場においても保育内容に器楽演奏など音楽活動が多くとりいれられたのも自然的成り行きと思われる。

《音楽リズム》の内容を検討しても“ひとりでも歌える”、“音程やリズムに気をつけて歌う”、“曲の速度や強弱に気をつける”、“楽器を弾いたりしながら、リズムカルな動きをする”、“旋律を即興的に歌う”、“旋律に自由にことばをつけて歌う”など幼稚園の園児にとっては高度な活動と思われる項目が多くみられる。

指導にあたっての留意事項においても、“しだいに音楽についての基礎的な技能や感覚を養う”、歌う活動において“発声や音程などにも注意する”、弾く活動において“弾き方の指導や分担奏を楽しませる”、鑑賞活動において“できるだけすぐれた音楽に接する”など“幼児の年齢や発達の程度に応じた無理のないように”という前書きがあるにもかかわらず、《音楽リズム》においては保育活動が技能的習得に偏ってしまった状況は、おのずと理解できる。

これに対して《表現》では、2・内容の6項目に“音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう”という1項目に音楽表現にかかわる具体的内容が集約され、3・留意事項の3項目には、“幼児が自分の気持ちや考えを素朴に表現することを大切にし、生活と遊離した特定の技能を身に付けさせるための偏った指導を行うことのないようにすること”とあえて指摘している。

Ⅲ 領域「表現」の音楽における意識および実際

将来保育者を目指す学生の音楽に対する意識調査と実際保育職について1・2年目の卒業生に対して、保育現場の音楽表現の取り組み方および音楽環境の実態調査を試みた。

調査方法としてまずはじめに、短大の幼児教育に入学した学生が2年間音楽教科を履修し習得した技能や知識をその後保育現場でどのようにいかしたらよいか、また保母養成として領域《表現》の音楽指導のあり方を検討するために、S短期大学の2年生で「幼児音楽」の授業を履修し、将来保育職を希望している学生102名を対象に1996年1月に実施した。次に「保育現場の音楽環境調査」としてS短期大学を卒業して、現在保育職（幼稚園・保育園）

「表現」における音楽指導について

について1・2年目をむかえる保育者120名を対象に1996年3月に実施した。調査内容として大きく下記の3項目を明かにした。

- 1) 保育教材としての幼児歌曲や遊び歌
 - ① 学生および保育者が選んだ幼児歌曲
 - ② 遊び歌としての「手遊び」の活用状況
- 2) 技能習得や知識理解の状況
 - ① 音楽の基礎的技能の習得状況
 - ② 音楽の基礎的知識の理解状況
- 3) 保育現場としての音楽環境
 - ① 音楽環境の実際
 - ② 音楽指導の実際

1) 保育教材としての幼児歌曲や遊び歌

① 学生および保育者が選んだ幼児歌曲

子どもたちと一緒に歌うとすればどのような歌を選ぶのだろうか。これから保育者になる学生と日々子どもたちと一緒に歌っている保育者に対して「春の歌」・「夏の歌」・「秋の歌」・「冬の歌」・「子どもと歌ってみたい曲」・「子どもが好きな歌」をあげてみたのが《表2・3・4・5》である。

この表からみても解るように、我々が小さい時に口ずさんだ歌が多くある。「チューリップ」、「ちょうちょう」、「こいのぼり」、「うれしいひなまつり」、「うみ」、「水あそび」、「たなばたさま」、「きらきら星」、「どんぐりころころ」、「まつぼっくり」、「とんぼのめがね」、「たきび」、「お正月」、「こぎつね」、「雪」、「ジングルベル」などはいまなお学生や保育者が選曲した上位10曲の中に入っている。学生が選んだ曲数としては、「春の歌」が23曲、「夏の歌」が18曲、「秋の歌」が18曲、「冬の歌」が22曲、学生が選んだ「子どもと歌ってみたい曲」は67曲である。また保育者が選んだ曲数としては、「春の歌」が24曲、「夏の歌」が24曲、「秋の歌」が17曲、「冬の歌」が20曲、「子どもが好きな歌」が41曲である。四季の歌としては「春の歌」が多い。そして学生が選んだ曲と保育者が選んだ曲にはそれほどおおきな違いはみられず、上位10曲の中に同じ曲名の歌は「春の歌」では6曲、「夏の歌」では6曲、「秋の歌」では7曲、「冬の歌」では5曲となっており、これらの曲は「子どもの歌」として限られた曲ではなく多くの人に親しまれ歌い継がれた曲である。

学生と保育者が選んだ上位10曲の中で四季の歌に限ると56曲上げられた。ここに選ばれた56曲の中で18曲は、曲集《幼児保育の歌とリズム》³⁾、《毎日のうたベストテン》、《幼児のうた110曲集》の中に取り上げられ、19曲はこの中のどちらかの2冊の曲集に入っている。

56曲をもう少し詳しくみると調子記号のFdurが19曲、Cdurが20曲、Ddurが5曲、Gdur

仲野悦子

表2 学生が選んだ幼児歌曲（春・夏）

春 (23曲)				夏 (18曲)			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
ちょうちょう	稲垣千穎 野村秋足	スペイン民謡	68	うみ	林柳波	井上武士	72
チューリップ	教育音楽協会	井上武士	58	きらきら星	武鹿悦子	フランス民謡	41
ぶんぶんぶん	村野四郎	ボヘミア民謡	23	たなばたさま	権藤はなよ	下総皖一	34
こいのぼり (絵本唱歌)	小出浩平	小出浩平	22	はなび (うたのほん)	井上 赳	下総皖一	24
せんせいとおともだち	吉岡 治	越部信義	13	水あそび	東 くめ	滝廉太郎	16
うれしいひなまつり	サトウハチロー	河村光陽	12	おぼけかんでないさ	楨みのり	峯 陽	10
春がくる	別所みよこ	渡辺茂	9	あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山 昭	10
あくしゅでこんにちわ	まどみちお	渡辺茂	6	かたつむり (文部省章歌)			9
思い出のアルバム	増子とし	本田鉄磨	6	なみとかいがら	まどみちお	中田喜直	9
一年生になったら	まどみちお	山本直順	5	せみのうた	佐藤義美	中田喜直	7
たんぼぼさん	神沢利子	湯山 昭	5	めだかの学校	茶木 滋	中田喜直	6
春が来た	高野 辰	岡野貞一	4	かえるの合唱	岡本敏明	ドイツ曲	6
さくらさくら	日本古謡	日本古謡	4	ほたる (わらべうた)			5
森の熊さん	馬場 弘	アメリカ民謡	4	海の底には青いうち	立原えりか	湯山 昭	5
ありさんのおはなし	都築益世	渡辺 茂	2	しゃぼん玉	野口雨情	中山晋平	3
遠足のうた	小林純一	中田喜直	2	ひまわりさん	小春久一郎	中田喜直	1
つくしんぼう	田中正子	溝上日出男	2	とんでったバナナ	片岡 輝	桜井 順	1
春よ来い	相場御風	広田竜太郎	2	おへそ	佐々木美子	佐々木美子	1
おつかいありさん	関根栄一	団伊玖磨	2				
ことりのうた	与田準一	芥川也寸志	1				
春の小川 (文部省唱歌)			1				
春	吉田トミ	井上武士	1				
うぐいす	林柳波	井上武士	1				

「表現」における音楽指導について

表2 学生が選んだ幼児歌曲（秋・冬）

秋 (18曲)				冬 (22曲)			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
どんぐりころころ	青木存義	梁田 貞	64	あわてんぼうのサンタクロース	吉岡 治	小林亜星	51
とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎	54	お正月	東 くめ	滝廉太郎	46
もみじ (絵本唱歌)			39	こぎつね	勝 承夫	外国曲	31
まつぱっくり	広田孝夫	小林つや江	27	サンタクロース	水田詩仙	外国曲	18
大きな栗の木の下で	不 祥	不 祥	14	ゆきのプレゼント	まどみちお	小谷 肇	13
いがくりぼう	森 修蔵	スウェーデン民謡	13	雪 (文部省唱歌)			13
山の音楽家	水田詩仙	ドイツ曲	9	じゅうにがつ	まどみちお	小谷 肇	9
たきび	選聖歌	渡辺 茂	8	ジングルベル	宮沢章二	ベアポント	8
うんどうかい	田中正子	右近義徳	5	おおゆきこゆき (児童唱歌)			6
いもほりの歌	高杉自子	渡辺 茂	4	雪のこぼろず	村山寿子	外国曲	5
小さい秋みつけた	サトウハチロー	中田喜直	3	赤はなのトナカイ	新田宣夫	J・マーク	5
赤とんぼ	三木露風	山田耕作	3	ゆきのペンキやさん	則武昭彦	安藤 孝	4
まっかな秋	薩摩 忠	小林秀雄	3	てぶくろ	野田しげみ	宇賀神光利	3
こおろぎ	関根栄一	芥川也寸志	2	コンコンクシャーンのうた	香山美子	湯山 昭	2
お月さま	平井多美子	フランス民謡	2	もちつき	小林純一	中田喜直	2
おちばのうた	佐藤義美	団伊玖磨	2	まめまき (絵本唱歌)			1
やきいも	小林純一	中田喜直	2	おしくらまんじゅう	小林純一	中田喜直	1
とんぼ	石川 年	芥川也寸志	1	たこの歌 (文部省唱歌)			1
				きよしこの夜	由木 康	グルーパー	1
				サンタが町にやってくる	タカオカンベ	J・F・コート	1
				もみの木	中山知子	ドイツ民謡	1
				雪だるまのチャチャチャ	多志賀明	多志賀明	1

仲野悦子

表3 保育者が選んだ幼児歌曲（春・夏）

春 (24曲)				夏 (24曲)			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
チューリップ	教育音楽協会	井上武士	8	水あそび	東くめ	滝廉太郎	9
春が来た	高野辰之	岡野貞一	8	うみ	林柳波	井上武士	8
ちょうちょう	稲垣千穎 野村秋足	スペイン民謡	7	はなび (うたのほん)			4
うれしいひなまつり	サトウハチロー	河村光陽	7	しゃぼん玉	野口雨情	中山晋平	4
こいのぼり (絵本唱歌)	小出浩平	小出浩平	4	キャンプだホイ	マイク真木	マイク真木	3
思い出のアルバム	増子とし	本田鉄磨	4	たなばたさま	権藤はなよ	下総院一	3
春	吉田トミ	井上武士	4	おぼけなんてないさ	槇みのり	峯 陽	3
せんせいとおともだち	吉岡 治	越部信義	3	南の島のハメハメ大王	伊藤アキラ	森田公一	2
かわいいかくれんぼ	サトウハチロー	中田喜直	2	かえるの歌	岡本敏明	ドイツ曲	2
おつかいありさん	関根栄一	団伊玖磨	2	きらきら星	武鹿悦子	フランス曲	2
ホ・ホ・ホ	伊藤アキラ	越部信義	2	ひまわりさん	小春久一郎	中田喜直	1
おはようクレヨン	谷山浩子	谷山浩子	2	ぼくのミックスジュース	五味太郎	渋谷毅	1
ぶんぶんぶん	村野四郎	ボヘミア民謡	2	やっほっほ なつやすみ			1
ありさんのおはなし	都築益世	渡辺 茂	2	山のワルツ	香山美子	湯山 昭	1
菌をみがきましょう	則武昭彦	則武昭彦	1	なみとかいがら	まどみちお	中田喜直	1
とけいのうた	筒井敬介	村上太郎	1	海の底には青いうち	立原えりか	湯山 昭	1
おはながわらった	保富康午	湯山昭	1	お星さま	都築益世	団伊玖磨	1
あくしゅでこんにちわ	まどみちお	渡辺茂	1	かたつむり (文部省唱歌)			1
おかあさん	田中ナナ	中田喜直	1	アイアイ	相田裕美	宇野誠一郎	1
ことりのうた	与田準一	芥川也寸志	1	とんでったバナナ	片岡 輝	桜井 順	1
うぐいす	林柳波	井上武士	1	魚になって	まきみのり	峯 陽	1
めだかがっこう	茶木滋	中田喜直	1	あの青い空のように	丹羽謙治	丹羽謙治	1
ともだち讃歌	阪田寛夫	アメリカ民謡	1	いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中恩	1
おはようのうた	高すすむ	渡辺 茂	1	おひさまロック			1

「表現」における音楽指導について

表3 保育者が選んだ幼児歌曲（秋・冬）

秋 (17曲)				冬 (20曲)			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
どんぐりころころ	青木存義	梁田 貞	13	あわてんぼうのサンタクロース	吉岡治	小林亜星	8
まつぼっくり	広田孝夫	小林つや江	10	雪（文部省唱歌）			7
とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎	9	ゆきのペンキやさん	則武昭彦	安藤 孝	6
山の音楽家	水田詩仙	ドイツ曲	4	お正月	東 くめ	滝廉太郎	5
もみじ（絵本唱歌）			4	こぎつね	勝 承夫	外国曲	5
たきび	巽聖歌	渡辺 茂	4	雪のこぼろず	村山寿子	外国曲	4
きのこ	まどみちお	くらかけ昭二	3	コンコンクシャーンのうた	香山美子	湯山 昭	4
さくのはな	立野 勇	本田鉄磨	2	やったサンタがまちにやってくる	たかおかんべ	コーツ	3
うんどうかい	田中正子	右近義徳	2	雪だるまのチャチャチャ	多志賀明	多志賀明	2
こおろぎ	関根栄一	芥川也寸志	1	ゆきってながぐつすきだって	香山美子	湯山 昭	2
いもほりの歌	高杉有子	渡辺 茂	1	まめまき（絵本唱歌）			1
赤とんぼ	三木露風	山田耕作	1	もりのクリスマス			1
わらいんばコスモス	まどみちお	磯部 叔	1	サンタじいさん			1
あきのこびとオータムタム	井出隆夫	福田和禾子	1	ちゅうちゅうねずみ			1
やさいもグーチーパー	阪田寛夫	山本直純	1	なわとび	涌井華子	涌井華子	1
むしのこえ（文部省唱歌）			1	北風小僧の寒太郎	井出隆夫	井出隆夫	1
くだもの列車	八代球磨男	小林つや江	1	サンタクロース	水田詩仙	外国曲	1
				もちつき	小林純一	中田喜直	1
				たこの歌（文部省唱歌）			1
				おすもうくまちゃん	佐藤義美	磯部 倣	1

仲野悦子

表4 学生が選んだ子どもと歌ってみたい曲

子どもと歌ってみたい曲 (67曲)				子どもと歌ってみたい曲			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
おもちゃのチャチャチャ	野坂昭如	越部信義	32	おめでとうたんじょうび	高田三九三	外国曲	2
そうだったらいいのにな	井出隆夫	福田和子	21	おはよう	増子とし	本田鉄磨	2
あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山 昭	21	てぶくろ	野田しげみ	宇賀神光利	2
思い出のアルバム	増子とし	本田鉄磨	20	ハッピーチルドレン	新沢としひこ	中川ひろたか	2
おばけなんてないさ	槇みのり	峯陽	20	せかいじゅうのこどもたちが	新沢としひこ	中川ひろたか	2
山の音楽家	水田詩仙	外国曲	18	せみのうた	佐藤義美	中田喜直	2
もりのくまさん	馬場 弘	馬場 弘	16	なみとかいがら	まどみちお	中田喜直	2
とんでったバナナ	片岡 輝	桜井 順	13	おんまはみんな	中山知子	アメリカ民謡	1
おつかいありさん	関根栄一	団伊玖磨	10	たなばたさま	権藤はなよ	下総院一	1
アイアイ	相田裕美	宇野誠一郎	10	雪 (文部省唱歌)			1
せんせいとおともだち	吉岡 治	越部信義	9	おかあさん	田中ナナ	中田喜直	1
あわてんぼうのサンタクロース	吉岡 治	小林亜星	8	たんぼばさん	神沢利子	湯山 昭	1
大きなくりの木の下で	不 詳	イギリス民謡	7	いがくりぼうや	森 修蔵	スウェーデン民謡	1
ぼくらのビエロボンピン	氏原和美	オランダ曲	7	めだかのがっこう	茶木 滋	中田喜直	1
はたけのポルカ	峯 陽	ポーランド民謡	7	ぞうさん	まどみちお	団伊玖磨	1
ありさんのおはなし	都築益世	渡辺 茂	7	四季の歌	荒木とよひさ	荒木とよひさ	1
ひげじいさん	不 詳	不 詳	6	水あそび	東 くめ	滝廉太郎	1
ふしぎなポケット	まどみちお	渡辺 茂	1	ことりのうた	与田準一	芥川也寸志	1
ひよこのダンス	平井多美子	フランス民謡	6	踊ろう楽しいポ-レチケ	小林幹治	ポ-ランド民謡	1
やぎさんゆうびん	まどみちお	団伊玖磨	6	おはなしゆびさん	香山美子	湯山 昭	1
とけいのうた	筒井敬介	村上太朗	4	このおとなでしよう	後藤礼子	磯部 叔	1
いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中 恩	4	どんぐりころころ	青木存義	梁田 貞	1
しゃぼんだま	野口雨情	中山晋平	3	たんぼばさん	神沢利子	湯山 昭	1
海の底には青いうち	立原えりか	湯山昭	3	ことりのうた	与田準一	芥川也寸志	1
とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎	3	一年生になったら	まどみちお	山本直純	1
うみ	林柳波	井上武士	3	大きなたいこ	小林純一	中田喜直	1
朝いちばん早いのは	阪田寛夫	越部信義	3	おおゆきこゆき (児童唱歌)			1
こぶたぬきつねこ	山本直純	山本直純	3	はしるのだいすき	まどみちお	佐藤 真	1
かわいいかくれんぼ	サトウハチロー	中田喜直	3	まつぼっくり	広田孝夫	小林つや江	1
チューリップ	教育音楽協会	井上武士	2	きらきら星	武鹿悦子	フランス民謡	1
しろくまのジェンカ	平井多美子	ケン・ウォール	2	しあわせなら手をたたこう	木村利人	アメリカ民謡	1
おなかのへるうた	阪田寛夫	大中恩	2	おかえりのうた	天野 繁	一宮道子	1
てをつなごう	中川季枝子	諸井 誠	2	雪だるまのチャチャチャ	多志賀明	多志賀明	1
大きな古時計	保富康午	ワーク	2				

「表現」における音楽指導について

表5 保育者が選んだ子どもの好きな歌

子どもの好きな歌 (41曲)				子どもの好きな歌			
歌 曲	作 詞	作 曲	数	歌 曲	作 詞	作 曲	数
おもちゃのチャチャチャ	野坂昭如 吉岡治補作	越部信義	2	おんまはみんな	中山知子	アメリカ民謡	1
おばけなんてないさ	槇みのり	峯 陽	2	おかえりのうた	天野 燦	一宮道子	1
いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中恩	2	バスごっこ	香山美子	湯山 昭	1
ミッキーマウスマーチ	連健児	ドット	2	おもちゃのマーチ	海野 厚	小田島樹人	1
テレビアニメ曲・セーラームーン		小諸鉄矢	2	クラリネットをこわしちゃった	石井好子	フランス民謡	1
♪ オレンジジャー	八手三郎	小杉保夫	2	ドキドキ一年生	伊藤アキラ	桜井 順	1
♪ アンパンマン	やなせたかし	三木たかし	1	どろんこと太陽	阿佐ヶ谷保育園 父母・保母	峯陽	1
♪ サザエさん	林 春生	筒見京平	1	ガンバリマンのうた	ともろぎゆきお	峯陽	1
♪ ドラえもん	楠部	はばすすむ	1	ひとりの手	本田路津子訳	ビートシーガー	1
♪ ドイミのまほう			1	きのこ	まどみちお	くらかけ昭二	1
ぶんぶんぶん	村野四郎	ボヘミア民謡	1	おひさまがいっぱい			1
もりのくまさん	馬場 弘	馬場 弘	1	ゆうき100%	松井五郎	馬飼野康二	1
かえるの歌	岡本敏明	ドイツ曲	1	手をたたきましよう	小林純一	中田喜直	1
アイアイ	相田裕美	宇野誠一郎	1	卒園のうたごえ	佐倉智子	おざわたつゆき	1
せんせいとおともだち	吉田 治	越部信義	1	雪のこぼろず	村山寿子	外国曲	1
そうだったらいいのにな	井出隆夫	福田和子	1	園歌			1
水あそび	東 くめ	滝廉太郎	1	まつぼっくり	広田隆夫	小林つや江	1
おへそ	佐々木美子	佐々木美子	1	こぎつね	勝 承夫	外国曲	1
ホ・ホ・ホ	伊藤アキラ	越部信義	1	ともだち讃歌	阪田寛夫	アメリカ民謡	1
どんぐりころころ	青木存義	梁田貞	1	朝いちばん早いのは	阪田寛夫	越部信義	1
ぞうさん	まどみちお	団伊玖磨	1				

が5曲であり、短調の曲は入っていない。拍子記号では $\frac{2}{4}$ 拍子が34曲、C拍子が16曲、 $\frac{3}{4}$ 拍子が2曲、 $\frac{6}{8}$ 拍子が1曲のみである。速度はアンダンテ(22曲)、モデラート(17曲)が中心である。音域は $\dot{c} \sim \dot{c}$ までのオクターブが21曲、 $\dot{c} \sim \dot{d}$ までが13曲で殆どの曲は8度から10度までに収まっている

子どもの歌は、「ポンキッキ」や「おかあさんといっしょ」などのテレビ番組やCDなどいろいろ紹介されているが、実際選ばれた曲は以前から歌い継がれた曲が多いことに注目し

たい。反対に子どもたちが好きな歌としてあげられる曲にTVアニメの曲がある。テレビで放映されているアニメ番組の主題歌は時々に変化されるが、子どもにとっては生活の中の一部であり影響が多いのも当然のことと思われる。

選ばれた曲(274曲)は今までに指摘されている特徴をもっている⁴⁾。幼児の歌ということでもとても単純で明快なリズムや形式をもち、曲の長さも短い。学生自身が好きで、子どもと一緒に歌ってみたい曲は、とてもリズムカルでたのしい曲を上げている。その中で「あめふりくまのこ」、「思い出のアルバム」、「海の底には青いうち」、「大きな古時計」などは、他の曲と比べリリカルな性格をもつ曲である。また遊び歌として「わらべうた」や「手遊び歌」が5曲と以外に少ないことが気になった。

保育者がこのような曲を子どもたちと歌う時、主にどのようなことをだいにしながら指導しているかみた。A)音程はずれてもともかく楽しく歌わせたいが60%、B)できるだけ音程やリズムを正しく歌わせたいが0%、C)元気よく大きな声で歌わせたいが32%、D)その他として年齢にあった歌い方、曲にあった歌い方、どならないで歌うということをごろがけているが8%であった。

以上の結果から今後問題点として上げられることは、保育者の調査結果の回収率が悪かったことである。120名中30名(幼稚園教諭が14名保育所保育母が16名)で25%であった。また保育職について1・2年目のということでもまだまだ保育が十分しきれていないということ、未満児クラス担任であること、複数担任の一人であることなどが上げられる。

このような点に配慮しながら経験豊かな保育者を対象にもう一度調査する必要が出て来た。

②遊び歌としての「手遊び」の活用状況

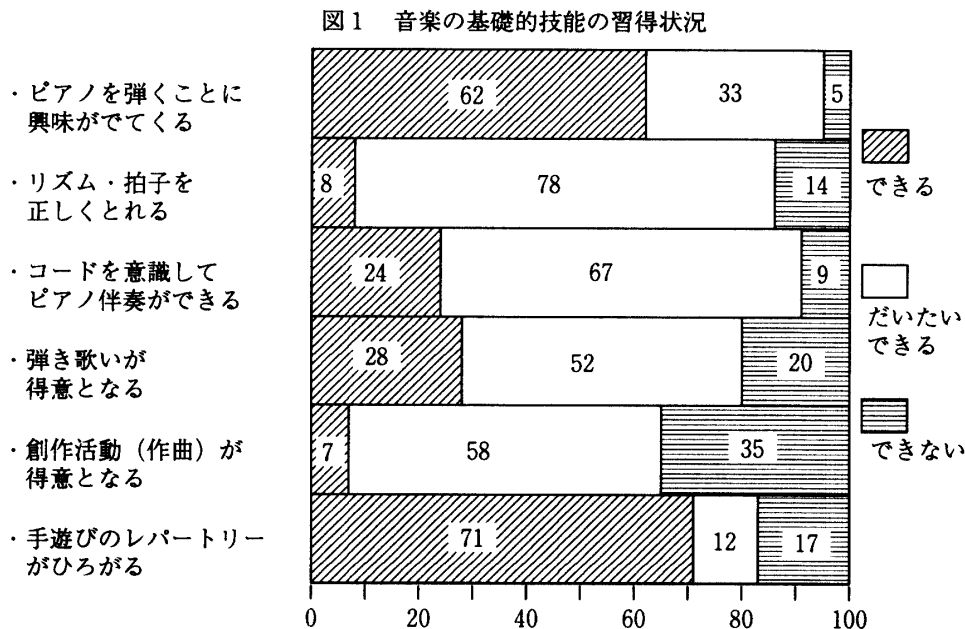
次に保育現場において手遊びの活用状況をみた。日常保育の中で手遊びをかなりするが32%、時々するが60%、あまりしないが8%である。活用としては全体の92%が何らかのかたちで子どもと一緒におこなっている。どのような時、どのような手遊びをするかの問いに対して、1番目には保育の導入として活用する(本を読む前、紙芝居を読む前、絵を描いたり製作をする前など)。2番目には決まった時間に活用する(朝の会、帰りの会、給食の前後、お始まりの会など)。3番目には集中させたい時に活用する(静かにさせたい時、自分の方に気を向けさせたい時、話をする時など)。4番目には時間的に余裕がある時に活用する(遊びの時間、子どもをまたせる時、時間が少しある時)が上げられた。曲目として季節や行事にあったもの、5本の指を使ったもの、その時のテーマにあったものなど40曲ほど紹介された。遊び歌はわらべうたと同じく、次から次へと発展していきリズムやメロディーの変化や替え歌がその時々に応じて行われている。保育者が遊びとしての柔軟な感覚と臨機応変な対応によって子どもたちに音楽の楽しさを感覚的に感じられるよう働きかける事が大事だと考える。

2) 技能習得や知識理解の状況

①音楽の基礎的技能の習得状況

2年間表現手段としてピアノを弾いたり、歌を歌ったり、手遊びをしたり、作詞・作曲して自分の曲を作ったりなど「音」を通して技能を習得してきた。その結果学生自身入学時と比較して、その技能が保育職についた時発揮できるかまた保育に生かせるか自分なりの評価をしてみた。

「ピアノを弾くことに興味が出てきたか」、「リズムや拍子を正しくとれるか」、「コードを意識してピアノ伴奏ができるか」、「弾き歌いが得意となったか」、「創作活動が得意となったか」、「手遊びのレパートリーがひろがったか」の6項目を基礎的技能としてあげ、その回答を《図1》に示した。



ピアノを弾く経験は学生によってさまざまである。(表6参照) 3割から4割近くの学生が入学して初めてピアノに接し四苦八苦の努力を積み重ねていることも事実である。また小さい時からピアノに親しんでいる学生も数人いる。入学当初の進度はさまざまであるが、とにかくピアノを弾くことに興味が出てきた学生が62%、少し興味が出てきた学生が33%、嫌いになった学生は5%となっている。

2番目に演奏したり、歌ったりしたときリズムや拍子が正しくとれるかどうかについては、よくできるが8%、だいたいできるが78%、変化なしが14%である。

3番目にコード(和音)を意識してピアノ伴奏ができるようになったかについては、よくできるは24%、だいたいできるは67%、全く意識して弾けないが9%である。音の高さや長

表6 ピアノ実技進捗状況

G	一年生									二年生					
	H4年度			H5年度			H6年度			H5年度		H6年度		H7年度	
	当初	前期	後期	当初	前期	後期	当初	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
0 バイエル	15	1	1	40	10	3	48	0	0	0	0	0	0	0	0
1 バ.46~	19	9	0	16	24	6	9	24	4	0	0	0	0	0	0
2 バ.66~	22	24	13	20	29	18	10	24	20	4	0	5	0	2	0
3 バ.79~	22	17	23	16	9	25	14	18	24	17	0	19	0	17	0
4 バ.93~	32	36	19	23	37	17	31	46	25	27	19	25	19	28	9
5 バ.105~	2	13	30	6	9	11	7	16	24	18	106	19	107	22	111
6 c.30.1~	8	15	26	6	12	17	7	6	8	25		25		21	
7 c.30.11~	1	0	11	3	0	1	3	0	3	13		14		19	
8 c.30.21~	3	5	0	1	1	0	4	3	3	3	(卒業自由曲)	3	(卒業自由曲)	6	(卒業自由曲)
9 c.40.1~	4	3	7	1	1	0	4	3	3	0		0		3	
10 c.40.21~	2	0	1	2	0	1	4	2	4	1		1		7	

さ（メロディーやリズム）に対しては注意を向けているが、殆どの学生は楽譜に示してあるコードに対して無意識の事が多い。伴奏の仕方や曲の響を大切にすることを視点からもコードに対しての指導は大事だと考える。

4番目に弾き歌いが得意となったかどうかについては、好きになったが28%、普通が52%、思うように弾けないが20%である。保育をする場合、保育者は子どもたちの様子を判断しつつ歌を歌い伴奏する事はもちろんであるが、この技能は学生にとって大変のようである。伴奏が弾けても歌がバランスよく歌えなかったりする事は多くあり、ピアノが弾けるからできるという

ものでもなく、別の技能習得が必要といえる。2年間で何曲程度弾き歌いができたかという質問に対して、《表7》に示してあるように一番多いのが16~20曲程度である。課題として一年間10曲以上となっているが、その中に収まっているのが現状のようである。また曲を弾く場合、保育を意識し教材として選曲したかどうかについては、意識したが16%、少し意識したが73%、全く意識しなかったが11%となっている。

5番目に創作（作詞・作曲）活動ができるようになったかどうかについては、よくできるが7%、だいたいできるが58%、思うように作れないが35%となっている。音楽には歌う・弾く・聴く・動く・作る活動がある。前者3つの活動についてはよく行われている。動く活動はリトミックでなされ、作る活動については殆ど経験していない。学生最後の機会としてこの活動に取り組み一冊の歌曲集を作った。実習した時の子どもの動きや表情、小さい時の自分の体験など子ども焦点をあてて言葉（歌詞）を考え、メロディーを作る事は日頃から幼児歌曲を歌っている学生にとっても大変な苦勞で、単純なリズム、メロディーであっても実

「表現」における音楽指導について

表7 弾き歌いした曲数

曲数	人数
～10曲	4人
11～15	3
16～20	36
21～25	22
26～30	14
31～35	0
36～40	8
41～45	5
46～50	5
51～	2

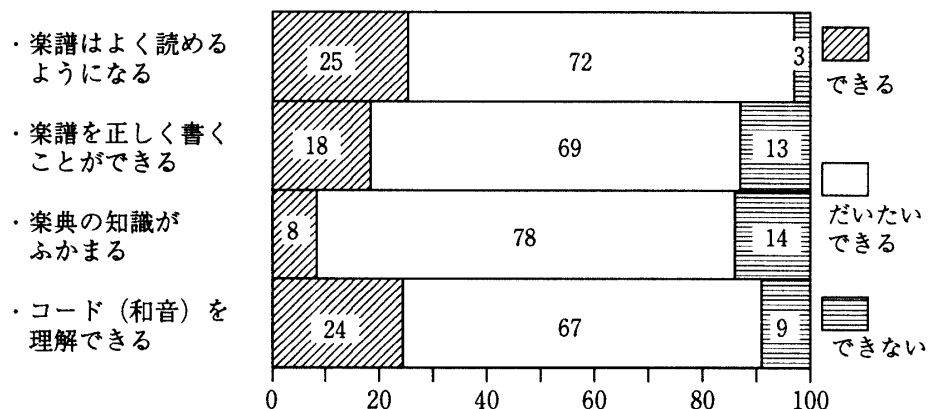
際楽譜にあらわせないようである。既製の楽譜は弾けても、自分が表現したいメロディーは楽譜にできないという弱点をみた。改めて基礎的な音楽理論の理解と技能習得をこころがけたい。

6番目に手遊びのレパートリーが増えたかどうかについては、増えたが71%、普通が12%、もっと増やす必要があるが17%である。保育の導入での利用、遊びの中での利用などわらべうたと同様、動きをともなった遊び歌として楽しみたいものである。

②音楽の基礎的知識の理解状況

技能を習得するために楽譜を読んだり書いたりするソルフェージュの理解状況について《図2》に示した。入学時と比較して楽譜はよく読めるようになったかどうかについては、よく読めるが25%、だ

図2 音楽の基礎的知識の理解状況



いたい読めるが72%、読めないが3%である。殆どの学生が楽譜をみて演奏できるようである。次に楽譜を正しく書くことができるかどうかについては、よく書けるが18%、だいたい書けるが69%、書けないが13%である。書くことの方がむづかしく日頃より意識的に楽譜を書くことに目を向けたい。

3番目には楽典の知識が深まったかどうかについては、よく解るが8%、だいたい解るが78%、理解していないが14%である。基礎的知識としての理解度が一番低く、理論と技能が一体化していない現れであり、指導するうえで注意すべき点であろう。

4番目にコード(和音)を理解できるようになったかどうかについては、よく理解できるが24%、だいたい理解できるが67%、理解していないが9%である。この結果は基礎的技能習得状況の3項目“コードを意識してピアノ伴奏ができる”と同じである。できないという

状況は、コードの理論的理解不足より生じた結果であり理解すればおのずとできるという事であろう。

3) 保育現場としての音楽

①音楽環境の実際

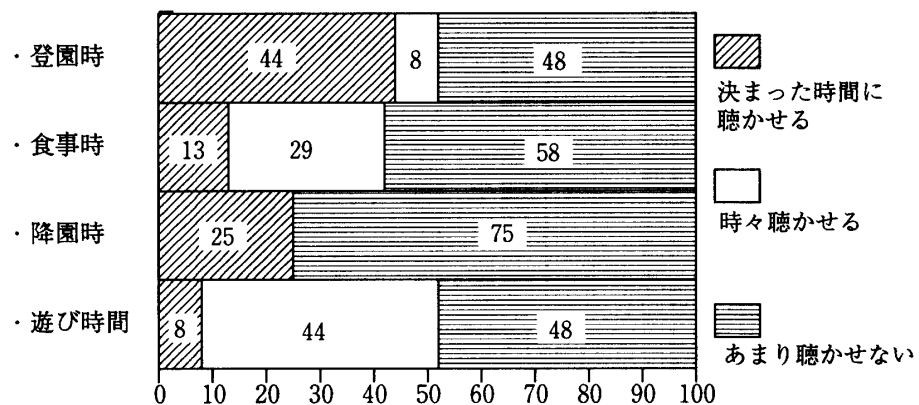
新教育要領や指針においてまず豊かな感性を育てる事を目的に掲げている。そして豊かな感性を育むには日常の生活や保育の中で美しいもの、優れたもの、心に残るものと出会い、そこから得た感動を保育者と子どもが共有し合い子どもが素朴に表現できるように環境を整えるよう留意事項に掲げている。

活動している殆どの時間を幼稚園や保育園で過ごしている子どもたちに保育現場として提供されるものはいろいろあるが、ここでは音楽に関してどのような働きかけがなされているかをみた。

はじめに日常保育の中でカセットテープ・CDなどを利用して音楽を聴かせているかどうかについては、決まった時間に聴かせるが37%、余裕が出て来た時に聴かせるが41%、あまり聴かせないが22%である。

2番目に登園時・食事時・降園時・遊び時間と比較的音楽を一斉に流しやすい時間帯における音楽の活用状況をたずね、《図3》に示した。この図からみる限り、あまり聴かせな

図3 音楽の活用状況



いの割合(48%、58%、75%、48%)が予想していたよりも意外に多いように感じられる。その他として朝の外遊び中や発表会の前にカセットテープをよく聴かせるという回答があった。

3番目には視聴覚教材としてテレビ・ビデオの活用状況をみた。いつも見せるが12%、時々見せるが60%、あまり見せないが28%であった。これらの利用状況は幼稚園と保育園では異なる。どんな時に利用されるかという質問回答の中にもあるように、保育園での長時間保育や延長保育の時間帯の利用が多い。その他には誕生日会、お楽しみ会、体を休ませる時、

「表現」における音楽指導について

時間が中途半端の時、雨天の時、などが上げられている。テレビでは「お母さんといっしょ」、「ポンキッキ」、「人形劇」、ビデオでは「日本昔話」、「世界のお話シリーズ」、「ディズニー」、「アンパンマン」、「ドラえもん」などあげられている。

4番目に楽器遊びについてみた。どんな時に楽器を利用しているかについて行事の時だけが70%、行事に関係なくさせるが15%、子どもがしたい時にさせるが4%、殆どしないが0%、その他が11%である。その他には午後からの自由保育の時間、発表会の前、子どもがしたい時にすくなっているが殆ど行事中心に活用されている。利用している楽器もカスタネット・すず・太鼓・タンブリン・トライアングル・鍵盤ハーモニカ・シンバル・マラカス・ウッドブロックなどと要領の中にも示されているように簡単なリズム楽器を中心に利用されている。他にシンセサイザー・コンガ・グロッケン・ギロ・ボンゴなどの楽器も利用されている。そして従来どおり発表会に向けての音楽活動が主流であるものの、「友達とリズムに併せて楽しく打てる」、「リズムにのってみんなで楽しく演奏できる」、「楽器の音色を生かして楽しく合奏することができる」という発表会のねらいをみたとき、無理のない取り組み方、楽しむための楽器演奏の方向にあることが伺える。

②音楽指導の実際

音楽指導する場合その課題の「ねらい」を達成させるために今までの経験をもとに、いろいろな試行錯誤がなされている。ここでは歌や楽器の指導に対して保育者自身の問題点、子どもとの関わりの中での問題点の2つに焦点をあてたい。

まず保育者自身については、「ピアノが弾けない」、「保育者の歌のレパートリーが少ない」、「子どもにつられて音程がずれる」、「弾き歌いができない」など技能的な貧しさを指摘している。

つぎに指導に対しては、「大きな声で歌って」と言うと怒鳴る子がいる。「がーがー一声で歌ってはダメ」と言うと声が小さくなる」、「0～2才児までの子どもたちに曲の中にどのような楽器を入れて演奏させるかがむずかしい」、「個々の音楽に対する興味やリズム感が異なるため一度に教えられない」、「年齢差のある子どもを保育する時の教材の選び方」、「休符の取り方などを言葉でおしえる困難さ」など年齢差による発達の程度の違いや興味・関心の程度の違いにより生じた技能を伴う保育のあり方の困難さなどの問題点がだされた。

これらの問題点に対して保育者自身次のようにして解決しようと試みている。「歌はまず保母自身が好きになること」、「子どもたちが親しみやすい曲を選ぶこと」、「年齢が低いので口を大きくあけ、ゆっくり歌ってあげると子どもは保母の口を見て覚えようとする」、「ピアノ伴奏する時うまく簡単に弾くことが大切である」などである。

子どもたちに音楽の楽しさを感じてもらうための無理のない指導を目指すには、その場その場の子どもの対応が必要である。特定の“音楽指導”ではなく生活の中から生まれ生活の

一部としての音楽、保育者による環境としての音づくり働きかけなど、基本的には毎日の繰り返しの積み重ねによる保育者と子どもの関わり方の中に生まれるものとする。

IV おわりに

戦後50年、保育の分野においてもひとつの区切りをみせている。福祉対策として打ち出された「今後の子育て支援のための施策の基本的方向（エンゼルプラン、94年12月16日）」も県や市におろされ「地方版エンゼルプラン」としてその地域にあった対応の仕方が求められている。そのような動きの中で園独自の特色をもつこと、ニーズにあった保育をすることがますます打ちだされ、保育の弾力化・複雑化・多様化を見せている。

このような保育に対応しなければならない保育者は精神的にも体力的にも強く、高度な技術・知識がおのずと要求されることになり、ますます子どもや親との関わり、保育者同志の連携も重要とされる。個人的プレーよりも子どもを取り巻く大人全員が協力し合い子どもを育てることが必要となっている。

このような保育の中で領域《表現》の音楽が占める役割は歌ったり・弾いたり・聴いたり・動いたりすることによって、自分の気持ちを「音」とおして相手に伝えたり、伝えられたり、ただ単に楽しんだりする心の表出である。年齢が小さくなればなるほどその表出は生活の一部であり素直で率直なものである。「子どもにとって音楽とはなにか」⁵⁾と考えるとき、保育者は子どもの「表出」や「表現」をしっかり受け止めると同時に、子どもがいつも発信できるような環境づくりをいつも考えつつ保育を進めなければならない。子どもたちばかりでなく保育者自信の感性をもはぐくんで、「みんなで歌を歌うことはこんなに楽しいものだよ」、「いろいろな音があってこんなにきれいな音色がするよ」というような働きかけをいつもして欲しいものである。

最後に、本調査にご協力して頂いた卒業生及び学生の皆さんにお礼申し上げます次第です。

注

1) 1992年9月より10月にかけて、保育所保育にたいしておこなった調査において音楽（表現）活動の変化をみた。「新指針」にたいして受け入れる姿勢をもつものの生かしきれていないという結果であった。とくに経験年数の長い保育者ほど戸惑いが多くみられた。

2) 同じ期間において、幼稚園教諭にたいして調査をおこなった。音楽（表現）活動において保育所保育とおなじく量的変化があきらかにされた。

3) 本学の学生が使用している歌唱教材のテキストである。選択した曲のレパートリーを見ると教材としても一度検討が必要である。

4) 愛知教育大学「幼児教育研究」(1995第4号)梅沢由紀子《幼児の歌唱教材論ノート(1)》において“うたわれている曲のレパートリーの特徴と変化”で指摘されているように幼児のうたは10年・20年以上の単位で一定しておりスタンダードである。そしてとても簡潔で音韻の明確な律動性をもつ曲として特徴づけてい

「表現」における音楽指導について

る。

5) 日本保育学会第49回大会において「子どもと音楽」というテーマでラウンドテーブルが開かれた。ここにおいても“子どもにとって音楽とはなにか”ということが問題提起された。大人が考える音楽が子どもにとってどうなのか、音楽も生活の中の一部であり言葉と密接に関係しているなど保育者として子どもにすることは興味や関心をもつような環境をセットすることであり、個々の保育者の持ち味が保育に生かされ子どもに提供できるように保母養成としても考えることが必要である。

参 考 文 献

- 文部省『幼稚園教育要領』〈原本〉 チャイルド社 1990年
厚生省『保育所保育指針』〈原本〉 チャイルド社 1990年
全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書』草土文化 1995年
松中久儀・楠景二編『幼児保育の歌とリズム』音楽之友社 1992年
坂東貴余子編『こどものうたベストテン』ドレミ楽譜出版社 1994年
伊藤嘉子他4名編『幼児の歌110曲集』エー・ティ・エヌ 1993年
下田和男・西村政一著『幼児の音楽と表現』建帛社 1991年
山住正巳著『子どもの歌を語る』岩波新書 1994年

資料1 新幼稚園教育における「表現」と「音楽リズム」と「絵画製作」

新幼稚園教育要領	旧幼稚園教育要領	旧幼稚園教育要領
<p>表現 「この領域は、豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする観点から示したものである。」</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり楽しんだりする。 (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり自由にかいたりつくったりする。 (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。 (7) かいたりつくったりすることを楽しみ遊びに使ったり飾ったりする。 (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>3 留意事項 上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 豊かな感性は、日常生活の中で美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し様々な表現することなどを通して養われるようにすること (2) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しむ表現する意欲を十分に発揮させることができるような材料や用具などを適切に整えること。 (3) 幼児が自分の気持ちや考えを素朴に表現することを大切に、生活と遊離した特定の技能を身に付けさせるための偏った指導を行うことのないようにすること。</p>	<p>音楽リズム</p> <p>1 のびのびと歌ったり、楽器をひいたりして表現の喜びを味わう。</p> <p>(1) いろいろな歌を歌うことを楽しむ。 (2) みんなといっしょに喜んで歌い、ひとりでも歌える。 (3) すなおな声、はっきりとしたことばで音程やリズムに気をつけて歌う。 (4) カスタネット、タンブリン、その他の楽器に親しむ。 (5) 曲の速度や強弱に気をつけて楽器をひく。 (6) みんなといっしょに喜んで楽器をひく。 (7) 役割を分担したり、交替したりなどして、楽器をひく。 (8) 楽器を大切に扱う。</p> <p>2 のびのびと動きのリズムを楽しみ、表現の喜びを味わう。</p> <p>(1) のびのびと歩いたり、走ったり、とんだりなどして、リズムカルな動きを楽しむ。 (2) 手を打ったり、楽器をひいたりしながら、リズムカルな動きをする。 (3) 曲にあわせて歩いたり、走ったり、とんだりなどする。 (4) 歌や曲をからだの動きで表現する。 (5) 動物や乗り物などの動きをまねて、からだで表現する。 (6) リズミカルな集団遊びを楽しむ。 (7) 友だちのリズミカルな動きを見て楽しむ。</p> <p>3 音楽に親しみ、聞くことに興味をもつ。</p> <p>(1) みんなと一緒に喜んで音楽を聞く。 (2) 静かに音楽を聞く。 (3) いろいろのすぐれた音楽に親しむ。 (4) 友だちの歌や演奏などを聞く。 (5) 音や曲の感じがわかる。 (6) 日常生活において音楽に親しむ。</p> <p>4 感じたこと、考えたことなどを音や動きに表現しようとする。</p> <p>(1) 短い旋律を即興的に歌う。 (2) 知っている旋律に自由にことばをつけて歌う。 (3) 楽器を感じたままひく。 (4) 感じたこと、考えたことを、自由からだで表現する。 (5) 友だちといっしょに、感じたこと考えたことをくふうして歌や楽器やからだで表現する。</p> <p>上記の指導にあたっては、次のことに留意</p>	<p>絵画制作</p> <p>1 のびのびと絵をかいたり、ものを作ったりして、表現の喜びを味わう。</p> <p>(1) 喜んで自由にかいたり、ものを作ったりする。 (2) 身近にある材料で思いのままに表現する。 (3) 見たり聞いたりしたことなどを絵にかいたり、ものに作ったりする。 (4) かいたり作ったりしたものを使って遊ぶ。 (5) みんなといっしょに絵をかいたり、ものを作ったりする。</p> <p>2 感じたこと、考えたことなどをくふうして表現する。</p> <p>(1) 感じたこと、考えたことなどをくふうして、絵にかいたり、ものに作ったり、飾ったりする。 (2) 身近な生活に使う簡単なものをつくる。 (3) ごっこや劇的な活動などに使うものを作る。 (4) いろいろな色や形に興味や関心を持ち、それらを集めて並べたり、組み合わせたりする。 (5) いろいろな色や形を使ってさまざまな表現をする。</p> <p>3 いろいろな材料や用具を使う。</p> <p>(1) いろいろな材料に親しみ、それを適切に使う。 (2) 砂、積み木などを使って、いろいろなものを使う。 (3) いろいろな用具をじょうずに使う。 (4) 材料や用具の準備やあとかたづけをする。</p> <p>4 美しいものに興味や関心をもつ。</p> <p>(1) 自分や友だちの作品を見たり、それについて話し合ったりする。 (2) 身近にあるものを美しいものを見て喜び、作品などをたいせつにする。 (3) 身近な環境を美しくすることに興味や関心をもつ。</p> <p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて、のびのびとした気持ちで思いのままに、現実的なもの空想的なものを絵にかいたり、ものに作ったりさせ、表現意欲をじゅうぶん満足させ、その喜びを味わわせるようにすること。</p>

「表現」における音楽指導について

新幼稚園教育要領	旧幼稚園教育要領	旧幼稚園教育要領
	<p>する必要がある。</p> <p>ア 1 に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じた無理のないように、のびのびと楽しんで歌ったり、楽器をひいたりさせ、しだいに音楽についての基礎的な技能や感覚を養うようにすること。なお、歌の指導については、幼児が親しみやすく、歌いやすい歌を取り上げ、歌うことの喜びを味わわせながら、しだいに発声、音程などにも注意して歌うようにさせること。また、楽器の指導については、リズム楽器を主体として楽器を自由にひかせ、それらの楽器に親しませ、しだいに幼児の年齢や発達の程度に応じて、基礎的なひき方の指導を加えたり、可能な場合には簡易な分担奏を楽しませたりすること。</p> <p>イ 2 に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じた様々な表現活動をさせるようにし、からだをのびのびとリズムカルに動かすことを楽しませるようにすること。また、集団的な遊びのなかでリズムカルなものを適当に加えるようにすること。</p> <p>ウ 3 に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度などを考慮してできるだけすぐれた音楽に接する機会を多くし、しだいに音楽に親しませるようにすること。</p> <p>エ 4 に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度を考慮して、幼児の気持ちや考えを自由に表現させ、創造的な活動を楽しませて、創造的な表現への意欲を高めるようにすること。</p> <p>オ 1、2、3および4の事項の指導にあたっては、いずれにもかたよることなく種々の経験や活動をできるだけ総合的に行わせて、情操を豊かにし、生活にうるおいをもたせるように常に配慮すること。</p>	<p>イ 2 に関する事項の指導にあたっては、幼児の生活や遊びのなかで、絵をかいたり、使うものを作ったり、色や形などを組み合わせて模様を作ったりなどさせ、飾ろうとする欲求を満たし、くふうする態度や構成する力の芽ばえをつちかうようにすること。</p> <p>ウ 3 に関する事項の指導にあたっては、1および2に関する事項と関連をもたせて指導し、各種の材料や用具の扱いにならせるとともに、特に安全に留意すること。</p> <p>エ 4 に関する事項の指導にあたっては、日常生活のなかでつとめてうつくしいものに接する機会を多くし、身近な環境を美しくすることに興味や関心をもたせるようにし、美的な情操の芽ばえをつちかうようにすること。</p>

仲野悦子

資料2

次の質問にお答え下さい。(自分に妥当と思われるところに○印をつけてください)

- 1 入学時と比較してピアノを弾くことに興味が出てきましたか。(1 出て来た 2 少し出て来た 3 嫌いになった)
- 2 入学時と比較して楽譜はよく読めるようになりましたか。(1 よく読める 2 だいたい読める 3 読めない)
- 3 入学時と比較して楽譜は正しく書けますか。(1 よく書ける 2 だいたい書ける 3 書けない)
- 4 入学時と比較して楽典の知識は深まりましたか。(1 よく解る 2 だいたい解る 3 変化なし)
- 5 入学時と比較してリズム・拍子を正しくとることができるようになりましたか。(1 よくできる 2 だいたいできる 3 変化なし)
- 6 入学時と比較してコード(和音)を理解できるようになりましたか。(1 よくできる 2 だいたいできる 3 理解していない)
- 7 入学時と比較してコードを意識してピアノ伴奏ができるようになりましたか。(1 よくできる 2 だいたいできる 3 全く意識して弾けない)
- 8 入学時と比較して弾き歌いが得意になりましたか。(1 好きになった 2 普通 3 思うように弾けない)
- 9 入学時と比較して創作(作詞・作曲)活動ができるようになりましたか。(1 よくできる 2 だいたいできる 3 思うように作れない)
- 10 入学時と比較して手遊びのレパートリーは増えましたか。(1 増えた 2 普通 3 もっと増やす必要がある)
- 11 2年間で、曲集「幼児保育の歌とリズム」なか、何曲程度弾き歌いをしましたか。()
- 12 弾き歌いのレッスン中、保育教材を意識して曲遊びをしましたか。(1 意識した 2 少し意識した 3 全く意識しなかった)
- 13 保育者としてあなたはどのような曲目を選びますか。それぞれ3曲選んで下さい。
春の歌()
夏の歌()
秋の歌()
冬の歌()
特に子どもと歌ってみたい曲()
自分の好きな曲()
- 14 入学時のピアノ実技の進捗は何を弾いていましたか。(バイエル・ツェルニ…など)
(曲集名 番号 グレード数)
- 15 卒業時のピアノ実技の進捗は何を弾いていましたか。
(曲集名 番号 グレード数)
- 16 卒業時の自由曲は何を弾いていましたか。(曲集名 番号 グレード数)
- 17 「幼児音楽」の授業内容としての意見を聞かせて下さい。また全体の音楽教科科目に関して要望がありましたら書いて下さい。

「表現」における音楽指導について

資料3

アンケートにお答えください

(該当する箇所には○印をつけてください)

- 1 勤務先はどちらですか。 (1 幼稚園 2 保育園 3 公立 4 私立)
- 2 現在担当しているクラスをお答え下さい。 (1 満1歳児まで 2 未満児 3 年少 4 年中 5 年長)
- 3 どのような保育形態ですか。 (1 自由保育 2 設定保育 3 自由・設定保育)
- 4 日常保育の中で、子どもたちの音楽活動は多いですか。 (1 あまり多くない 2 普通 3 かなり多い)
- 5 音楽活動についておたずねします。②
 - ①「手遊び」は日常保育の中でよくしています。
(1 あまりしない 2 時々する 3 かなりする)
 - ②どんな時にどんな手遊びをしていますか。
どんな時 () どんな曲 () ()
どんな時 () どんな曲 () ()
どんな時 () どんな曲 () ()
 - ③子どもたちは、どんな歌を好んで歌っていますか。
() () ()
 - ④子どもたちにぜひ教えたい歌はどんな曲ですか。3曲あげてください。
春の歌 () () ()
夏の歌 () () ()
秋の歌 () () ()
冬の歌 () () ()
 - ⑤歌わせる時、主にどんなことをだいにしますか。(ひとつだけ)
A 音程ははずれてもとにかく楽しく歌わせたい
B できるだけ音程やリズムを正しく歌わせたい
C 元気よく大きな声で歌わせたい
D その他 ()
 - ⑥子どもたちに楽器遊びや演奏をさせることがありますか。
1 行事の時だけ 2 行事に関係なくさせる 3 子どもがしたい時にさせる
4 殆どしない 5 その他 ()
 - ⑦どんな楽器を活用しますか。
 - ⑧日常保育でカセット・CDなどを利用して音楽を聴かせていますか。
1 あまり聴かせない 2 余裕のできた時にする 3 決まった時間に聴かせる

仲野悦子

⑨朝の登園時、昼の食事時、降園時、遊びの時間音楽は流されていますか。

登園時	(1あまり聴かせない	2時々聴かせる	3決まった時間に聴かせる)
食事時	(1あまり聴かせない	2時々聴かせる	3決まった時間に聴かせる)
降園時	(1あまり聴かせない	2時々聴かせる	3決まった時間に聴かせる)
遊び時間	(1あまり聴かせない	2時々聴かせる	3決まった時間に聴かせる)
その他			

⑩視聴覚教材として、テレビ・ビデオはどの程度利用されていますか。

(1あまり見せない 2時々見せる 3いつも見せる)

⑪⑩で2、3と答えた方、どんな時・どのような番組を見せますか。

時	番組名
---	-----

6 保育者となって自分の作曲した曲を子どもたちと歌ってみましたか。

(1いいえ 2はい)

7 6ではいと答えた方、反応はいかがでしたか。

8 コードを学んでピアノ伴奏などに活用されていますか。

(1あまり活用しない 2時々活用する 3多いに活用している)

9 音楽(歌や楽器)を指導する時、なにが一番苦労ですか。またどんな悩みがありますか。

10 園でどのような歌の本を使用していますか。お聞かせ下さい。

(書名	出版社名)
-----	------	---

ありがとうございました